

深江物語 (14)

本庄小学校の話(2) 校歌

深江塾 森 口 健 一

今回は本庄小学校の校歌の「歌詞」と「作曲者」の話である。

歌詞について

現在の校歌は、昭和二十二年（一九四七）十一月の学芸会で発表された。『本庄小国民学校沿革史』は「十一月二十三日（新嘗祭日）新装成った復旧の講堂で全一日に大プログラムの学芸会を民主的に実施。急作の校歌に始まり校歌に終わる（以上原文のママ）」と簡単に伝えている。

歌詞については、『沿革史』は何も記載していない。歌詞のみならず作詞・作曲者の名も記載がない。まず歌詞について校歌創作時から今日までの変遷について書く。

昭和三十五年度の卒業生に配布された校舎を背景にした校歌の写真がある（写真1）。校歌を書いた公式のものとしては一番古いものだろう。その写真にある歌詞の表記は次の通りである。注・（一）内は筆者記入。

(一)

茅渟の浦曲に五輪のそびゆる
親和の学舎さやかに陽をあび
心もゆたかに生気にみちみち
恵の潮に仲よくむづばん



写真1 本庄小学校校歌

いざ強く 共に行かん
大志もて われら学童 わが本庄
(三)

武庫のやまやま 晴めはひらけて
浜のうら風 のどかに吹く里
歴史を語るか 青木の船うた
深江の老松 (おじまつ) 枝ぶりなつかし
いざきよく古きひびき
身にうけて われら学童 わが本庄
(三) (一葉草)

東西文化の
平和の郷土に ござかに咲きそう
健康いやまし 明るき学園
世界のともども 手をとり仲よく
いざたたん 行くてはるけし
勇ましく われら学童 わが本庄

学校創立一〇〇周年に際して本庄小学校が平成十二年（二〇〇〇）一月三十日発行した『本庄のうつりかわり』という冊子に記載されている校歌の表記は、「一番の出だしは「ちぬの浦和に五輪のそびゆる」となっている。「ちぬの」は大阪湾の別名でもあるが漢字が難しいのでひらがなに変えたのかもしれない。ただ、「うらわ」が「浦和」となっているのは感心できない。「ちぬのうらわ」の「うらわ」は漢字では「浦曲」で、雅語で

入江や海岸の意味である。「浦和」は埼玉県の県庁所在地の都市名である。本来の歌詞の意味は、「大阪湾の岸边に五輪の塔が聳え立つ我が学び舎」なのである。

三番の二節目が、「平和の郷土に 明るき樂園」となつている。それまでの歌詞は「樂園」ではなく「学園」だった。しかし「学園」が「樂園」となれば、学校とは何かという疑問すらおきかねない。

神戸市立 本庄小学校 校歌

本庄小学校校歌（本庄小学校提供）

判明した結果を記しておく。

昭和三十六年までは、「うらわ」と「学園」の表記。それから三十年間は卒業アルバムに校歌の記載はない。平成五年（一九九三）から平成十八年（二〇〇六）の卒業アルバムには「浦和」と「樂園」の表記になっている。平成二十三年のアルバムには「樂園」は「学園」に変更されたが、「うらわ」は依然として「浦和」のままである。

作詞作曲者について

『沿革史』には、校歌が発表された様子を簡潔に記載してはいるが、既述の通り作詞者や作曲者については記載がない。作詞者と作曲者については公式の記録は現在不明である。証拠や史料としては不十分を承知で筆者の手元にある資料をもとに作詞作曲者について述べてみたい。



写真2 藤田幸伸校長
1943年3月
本庄国民学校
卒業アルバムより

だつた。その時校長から「由来は不明だがこんな文書がある」と「校歌制定の経過」という手書きの文書を頂いた。そこには作詞者が「藤田幸伸校長が作詞された」と記されている。

「校歌制定の経過」という文書は手書きで、文の末尾には「1990.1.26」と書いてある。その書面全文を原文のまま引用する。



写真3 潮田先生の諏訪山小学校へ転任の記念撮影（1960年3月17日）
元本庄村役場だった本庄公民館前で。前列右から北城喜三郎・中田常太郎・潮田・永井庄左衛門元村長・永田広治・平井富士夫、後列右から柴田次郎・丹羽新一郎・前中芳太郎・太田垣正雄元助役・寺田好雄。村長・助役以外は元村委会議員。

昭和22年11月23日（当時の新嘗祭日）、新装成った復旧の講堂で、その記念の学芸会が開催された。それを期して、急いで校歌を作るということになり、当時の藤田幸伸校長が作詞をされた。

それを作曲を先
うことになつた。

その曲は、信時潔氏（注・戦前には第二國歌と称された「海ゆかば」の作曲者。また県立神戸高校の校歌の作曲者でもある）作曲の「兵庫県民歌」を借用したものではないかと推測される。従つて、楽譜に作曲者名を記すことができず、それにつれて、作詞者名も不詳とし

*後年、潮田先生が校長会役員として、國立教育会館で信時氏に出会う機会があり、本校校歌制定のいきさつを話され、信時先生から快く了承の言葉を頂いたとのことである。(1990.1.26)

この文書は誰が、何のために、誰宛に書いたのかは不明である。ただ、文書の添え書きにある「潮田義美先生よりの聞き書き」とある潮田先生は校歌作詞者の藤田幸伸校長と同時期に本庄小学校で教

兵庫県民歌

作詞
作曲

鞭をとらっていた先生である。

筆者は、本庄小学校六年の昭和三十五年（一九六〇）のときの担任の常国忠夫先生から、校舎の上に建つ「五輪の塔」や、「二宮金次郎の像」の意味と共に「校歌は当時の校長先生が作られた」と教えてもらっていた。当時の校長先生の名前を教えて

いただいたかどうかは記憶にはなかつた。
平成二十八年の二月に上橋校長から「校歌制定の経過」という文書を見せられて、初めて当時の校長が「藤田幸伸校長」であることを知り、校歌のメロディは「海行かば」などの大作曲家である信時潔氏の「兵庫県民歌」からの借用であることを知つた。

校歌の「曲が兵庫県民歌から借用したものであるのではないか」との疑問ないし問題は、平成二十七年に伊丹市在住の音楽研究家の橋岡昌幸氏が兵庫県民歌の存在について調査している過程で、本庄小学校校歌との関連に行き着いたことが発端だった。兵庫県民歌は昭和二十二年（一九四七）二月十九日の「神戸新聞」によれば、新憲法公布記念事業として県が公募し、県内の小学校教師の方の作品（作詞）が一等となり、昭和二十二年二月一八日に発表された。この歌詞に作曲家信時潔氏が同年三月に曲をつけ発表することになつた。

たまたま県民歌を聞いた人が「この兵庫県民歌は本庄小学校の校歌の替え歌か」との疑問を橋岡氏に投げかけられた。氏は、神戸深江生活文化史料館や本庄小学校に問い合わせをされ、橋岡氏は『歴史と神戸』三三二号（二〇一七年）に『兵庫県民歌』

の戦後」という論文をまとめた。県民歌と校歌の楽譜を比較すれば音楽に無知の筆者にでも両者が同じ曲である事は分かつた。兵庫県民歌が発表されたのが昭和二十二年（一九四七）二月。本庄小学校校歌が発表されたのが昭和二十二年十一月。推測だが「戦災から復興新装成った講堂における学芸会での新校歌披

（校長）が作詞
し曲は兵庫県
民歌を借用し
た。『沿革史』
に「急作の校
歌」との記載
はこのような
事情があった。

筆者の母校である本庄小学校校歌が、兵庫県民歌の曲からの借用である事は疑いのないことを知った。校歌ができるから八年近くになろうとしている。校歌創作時の経緯を知る教師の潮田義美先生や常国忠夫先生などもすでに鬼籍に入られている。伝統ある学校の校歌の由来（作曲者）が判明しているのに、い

つまでも不明・不詳というのは好ましくないと想い、このたびの記述に至つた。

謝辞 本稿の執筆にあたっては、神戸市教育委員会、本庄小学校に資料の提供などで協力を得た。末筆ながら厚くお礼申しあげます。また兵庫県民歌の楽譜はWEBサイト「『兵庫県民歌』の記録と記憶」(<https://hyogoprefsong.wixsite.com/jp28>)に掲載されている。